

【優秀賞】

水ストレスへの意識

仙台市立郡山中学校

三年 伊藤 藤路

「水ストレス」。この言葉を初めて聞いたとき、私は実感がわかかなかった。水ストレスとは、日常生活を送るのに不便を感じるほど水が足りない状態のことだそう。私たちの住んでいる国、日本は水道が完備されている。そのため、蛇口をひねればいつでも飲料水が出てくる。そんな恵まれた国で生活しているから、水ストレスという言葉に実感を持てなかったのだ。だが、決して日本と水ストレスは無関係ではない。

現在、この世界では水不足に悩まされている人が、世界人口の四十パーセント以上いる。そしてそれは、今後も上昇すると考えられている。この状況が続いてしまえば、二〇五〇年には世界人口の約半数が水不足にさらされる。その時世界人口は約九十七億人にもなると予測されているのだ。そう、水ストレスとは日本も含めた世界的な問題だ。

このことを知った私は、今までの生活を振り返ってみた。コップに飲み物を残したまま家を出て学校に向かう。お風呂では、無駄にシャワーを出し続けたりした。きれいな水があることをあたりまえだと思っていた。こんな生活をしている人は、私の他にもたくさんいるだろう。私たちは、水との関わり方にもっと危機感を持った方が良いのかもしれない。

私は、水不足の原因にこそ、この問題の対策があるのではないかと思つた。水不足の原因で主に上げられるのは、「世界人口の増加」と「気候変動」だ。気候変動については、今もニュースで取り上げられている、地球温暖化や砂漠化、大雨、水害などが直接的な原因になっているだろう。地球温暖化の防止は水不足の防止にもつながる。生活の中で改善すべきところはまだまだ多くあるということだ。そして世界人口の増加につい

て。一見、どうしようもないことのように思える。人々の生活が豊かになれば、人口が増えることも必然だ。だが、ここで大事なものは、人口が増えると知っている状況で、一人一人がどのように水と関わっていくのかだろう。私たちの生活の仕方によって、この世界の未来も変わっていくかもしれない。「水は大切だ。無駄にしてはいけない。」言葉では分かっている、本当に意味を理解し、実際に心がけて生活できている人はどのくらいいるのだろうか。

ある地域での取り組みを、一つ挙げたいと思う。香川県高松市は、昔から年間降水量が平均の三分の二程度の少雨地域である。また、周辺に大きな川がないためダムが作れず、吉野川から導水した水に依存していた。そのため、水はどんどん不足していった。その現状を変えようと、地域の人たちは「水を大切にすることを向上させるために取り組んだのだ。まず、「ため池守り隊」というボランティアが早明浦ダム周辺の清掃を行った。そして、「みずのわ」という親子向けの生き水体験などができるイベントを開催した。このようにして、地域の人々が呼びかけたおかげで市の節水意識は高まり、水道使用量が減少したのだ。

この話は高松市の中での話だが、日本の未来にも関わる大事な話だ。自分たちが意識したところで何も変わらない。そう思う人もいるかもしれない。だが、高松市の人々は地域を守るために呼びかけ続けた。そういった小さな行動が実を結んだ。今、この地球は水ストレスに悩まされている。地球を守るのは私たちだけだ。小さなことでも、多くの人が少しずつ水との関わり方を考え、意識を変えていけたらと、私は思う。